


大項目	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(1) 自己収入拡大への取組							
【年度計画】								
機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 栗原 祐司			
【実績・成果】								
自己収入については、下表のとおり1,714,563千円となり、目標を上回った。								
		目標値	平成28年度					
自己収入		1,538,510千円	1,714,563千円					
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。 ※受託研究・受託事業を除く。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
自己収入額 (展示事業等収入)	1,714,563千円	1,538,510千円	B		1,586,683	1,240,226	1,730,218	1,817,119
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		計画通り取組を実施しており、目標を上回ることができた。						
【中期計画記載事項】								
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		計画通り取組を実施しており、目標を上回ることができた。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(2) 外部資金の獲得							
<b>【年度計画】</b>								
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 栗原 祐司			
<b>【実績・成果】</b>								
寄附金については、下表のとおり 753,812 千円となり、目標値を上回った。								
		目標値	平成 28 年度					
寄附金		439,574 千円	753,812 千円					
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。								
<b>【補足事項】</b>								
<b>【定量的評価】</b> 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
寄附金等額 (その他寄附金等)	753,812千円	439,574千円	A		199,376	172,318	789,808	795,744
<b>【年度計画に対する総合評価】</b>	<b>【判定根拠、課題と対応】</b>							
評価：A	計画通り取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。							
<b>【中期計画記載事項】</b>								
<p>展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(中略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。</p>								
<b>【中期計画に対する評価】</b>	<b>【判定根拠、課題と対応】</b>							
評価：A	計画通り取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	総務課長 竹之内勝典					
【実績・成果】(博物館4施設) ①月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。 ②撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケナビ!)への登録を継続した。 ③主に入館者の拡大と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマなど33件のイベントを実施し、約35,000人の参加があった。特に、若年の新規来館者の獲得を目指した「博物館で野外シネマ」を昨年度に引き続いて実施し、延べ17,000人(4回実施)の来場があった。また、「博物館でアジアの旅」では、アジア民族楽器の演奏会を東洋館の展示室内で行うなど、新たな展示の楽しみ方を示すことができた。さらに、国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し、無料観覧(総合文化展のみ)のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い676人が来場した。								
【補足事項】 ①来館者に展示観覧と合わせてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。 ②撮影件数の更なる増加のため、インターネットロケーション検索サイト(ロケナビ!)の申し込みプランに引き続き登録しており、問い合わせが絶えない状態である。 ・ロケ担当者からのニーズに対応するため、ロケハン(撮影下見)用の案内シートを各施設の開館状況に応じて更新した。 ・ロケスタッフへのきめ細かな対応と、更なるサービス向上の一環として、ロケ弁(弁当)業者の斡旋を引き続き実施した。また台東区からロケ弁当業者の情報を提供してもらうことで、より手厚いサービス提供を図った。 ③企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用(それに伴う収入増)を図った。 ・企業等のパーティーによる収入は、9件77,505千円となった。 ・撮影による収入は、325件32,317千円となった。(27年度実績286件 26,518千円) ・重要文化財である表慶館を特別展が開催されていない時期にユニークベンチャーとして積極的に活用し、大型イベントの誘致に成功した。 ・27年7月より業務効率化・民間の接客対応サービスのノウハウを取り入れることを目的として撮影業務を民間企業に業務委託した。								
								
企業のイベントによる施設貸出の様様(法隆寺宝物館)			「博物館で野外シネマ」の様様					
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	747件	-	-		637	676	664	652
うち有償利用件数	529件	-	-		342	393	402	434
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効活用件数を前年度比14.6%増とすることができた。 『博物館で野外シネマ』では、アンケート回答者のうち32%が東京国立博物館について「存在を知らなかった」「来館したいと思っていなかった」と答えているが、実施後の再来館意向は「強く思う」「まあ思う」を合わせて94%となっており、非来館者や来館頻度の少ない層に対して来館のきっかけを提供するとともに、再来館を促す高い訴求力が認められた。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 案件ごとに適宜判断を行いながら、保有資産の外部への貸出を進めることができ、中期計画を順調に実施することができた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 植田義雄					
【実績・成果】 ①展覧会に関する講演会、土曜講座の他に、外部よりゲストを招いて公開対談「新春・京博こと始め2017」を開催した。 ②講堂等の利用案内を京都ユニークベニューガイド(編集・発行：京都文化交流コンベンションビューロー)へ掲載し、保有資産の有効利用の推進を図った。また平成知新館グランドロビーのユニークベニューに関する資料を作成し、関係団体、学校等外部に配布した。 ③従前の「京都・らくご博物館」、「音燈華コンサート」等の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、平成知新館名品ギャラリー無料観覧及び茶室「堪庵」での茶道体験(呈茶)を行った。また、博物館に無関心な層の獲得を目指して開催した「開館120周年カウントダウン」、「京キャラ博・京都ほんまもん祭」では、合わせて8,000人超の来館者を得ることができた。								
【補足事項】 ①講座・講演会等 ・「新春・京博こと始め2017」(当館館長と画家 山口晃氏の対談) 平成29年1月2日 場所：平成知新館講堂 参加人数：204名 ②外部への会場提供 ・映像(テレビ、映画等)・商品カタログ等の撮影(平成知新館、庭園、茶室)、茶会の開催(茶室)、会議・講演会等の開催(講堂)、式典・パーティ等の開催(平成知新館グランドロビー、庭園) ③コンサート等のイベント ・「京都・らくご博物館」…5月13日 参加人数：135名、8月5日 参加人数155名、10月21日 参加人数128名 平成29年1月27日 参加人数：134名 ・「留学生の日」…9月9日 場所：平成知新館、茶室 参加者数：33名 ・「開館120周年記念カウントダウン」…12月31日 場所：平成知新館、平成知新館講堂、庭園 参加人数：1,000名 ・「京キャラ博・京都ほんまもん祭」(京都府内を集めたイベントおよび京都物産展) 29年3月18日 場所：平成知新館、庭園 参加人数：7,245名								
				 <p>新春・京博こと始め 2017</p>				
 <p>留学生の日</p>		 <p>開館120周年記念カウントダウン</p>						
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	105件	-	-		59	28	63	112
うち有償利用件数	93件	-	-		46	25	57	104
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 講堂等の利用案内について、京都ユニークベニューガイド(編集・発行：京都文化交流コンベンションビューロー)への掲載、新たな資料作成等を行い、外部に対して積極的に広報を行った。また、入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベント(京キャラ博等)を試みた。件数についても、過去4年間の平均を上回っており、計画通りに有効活用を推進することができた。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たな広報手段の活用及び入館者数拡大のための新規イベントを企画し、本来業務に支障のない範囲で実施した。その結果、中期計画通りに順調に成果を上げている。来年度以降についても、施設の有効利用の推進を図っていく予定である。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組								
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進								
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講座等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。									
担当部課	総務課	事業責任者	課長 室溪 浩						
【実績・成果】 (博物館4施設) ①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 ②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。 ③地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。									
【補足事項】 ①講座・講演会 公開講座(13回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(97回)、特別鑑賞会(10回)、文化財保存修理所特別公開(1回)等 ②世界遺産学習(22校) ③イベントの実施 ・講堂：親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう!」、特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく!みる!ふれる!東征伝絵巻」、第68回正倉院展親子鑑賞会、特別陳列「お水取り」関連企画『お水取り「講話」と「粥」の会』、文化財保存修理所特別公開、お水取り展鑑賞とお松明 ・地下回廊：ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」、親子で楽しむイベント「仏像のカブリモノ」「東大寺大仏の穴くぐり」、奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華づくり」 ・仏教美術資料研究センター：「正倉院展特別セミナー」 ・庭園・茶室：案内ツアー(2回)、「おん祭と春日信仰の美術」茶会 ○会場提供 ・講堂：能楽学会「世阿弥忌セミナー」、講演会「東大寺と奈良町周辺の文化財を訪ねて」 ・仏教美術資料研究センター：吉桑道子「宇宙に祈る」ゴスペルコンサート ・庭園：コンサート 音燈華「ジェスカ・グランペール」 ・茶室：茶会 ・敷地内：なら燈花会、野点のお茶席、奈良県柿の日消費拡大イベント、「フェラーリ・カヴァルケードインターナショナル2016」、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供、なら瑠璃会等									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数		113件	-	-		139	144	117	117
うち有償利用件数		27件	-	-		39	43	34	33
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 近隣社寺や地元自治体等と連携して、イベント『お水取り「講話」と「粥」の会』を行ったり、なら燈花会等の会場提供を行うことで、博物館の認知の向上及び、施設の有効活用ができた。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 コンサート会場等として施設を提供することにより、博物館の認知の向上及び、自己収入を獲得することができており、計画どおり順調に施設を有効利用し成果をあげている。							



文化財保存修理所特別公開

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	交流課	事業責任者	交流事業室事務主査 岩橋神奈子					
【実績・成果】 ①特別展およびトピック展等に関する講演会・講座等を開催した。 ②ミュージアムホールおよび茶室、研究室等の外部団体への貸出を積極的に行った。 ③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。								
【補足事項】 (博物館4施設) ①展示関連の講演会等の開催 1) 特別展及び文化交流展(トピック展)関連イベント ・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連記念講演会「神宿る島と祈りの記憶-祭祀遺跡の発掘調査譚-」 (29年1月21日開催 参加者数:229人) ・トピック展「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連講演会「『魏志』倭人伝に記された一支国の世界」 (11月26日開催 参加者数:34人) ②外部団体への施設の貸出 有田焼創業400年企画展の誘致 ・9月14日～25日 日本遺産認定記念「日本磁器のふるさと 肥前」パネル展(佐賀県文化課主催) ・9月20日～25日 きんしゃい有田珠玉の器紀行(有田焼展示販売)(佐賀県有田焼創業400年事業実行委員会主催) ・11月25日～27日 恋する器と本 有田焼書店(有田焼展示販売)(有田観光協会主催) ③施設利用の実績 撮影利用 16件(うち有償0件) ④国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートの開催 ・みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」(8月7日、参加者数:283人) ・ミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」(8月11日、参加者数:350人)								
								
トピック展関連講演会の様子			恋する器と本 有田焼展示の様子			みゅーじあむ寄席の様子		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	355件	-	-		246	269	321	392
うち有償利用件数	116件	-	-		86	122	120	118
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 特別展「京都 高山寺と明恵上人」の混雑対策のため、ミュージアムホールとエントランスを長期間使用することができなかったため、貸出件数自体は27年度に比して伸びなかったものの、特別展・トピック展示と関連した展示物販等に伴う施設の貸与を積極的に実施し、自己収入の増加に貢献した。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、会議・昼食利用のための会議室の貸与及び展示・講演会のためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を順調に履行できた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部			事業責任者	部長 外間 尹隆			
【実績・成果】 ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを28年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。 ・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。								
【補足事項】 ・第50回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」								
								
オープンレクチャーの様子								
・有償貸付例：文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える—展示技術と保存修復学」開催（29年1月29日、一般財団法人文化財保存修復学会）								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	185件	-	-		181	177	164	186
うち有償利用件数	9件	-	-	20	23	12	7	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施した。当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関への有償貸付を9件実施し、適正な施設利用を図った。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 28年度からの中期計画期間も施設の有効利用の促進を図る計画であり、初年度である28年度も計画どおり実施した。29年度も同様に、当研究所の会議室及びセミナー室の貸与等継続して行う予定である。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組																									
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進																									
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。																										
担当部課	研究支援推進部			事業責任者	研究支援課長 伴 佳英																					
【実績・成果】																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th colspan="2">28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館 講堂</td> <td>129件</td> <td>(内 有償貸与 17件)</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館 小講堂</td> <td>130件</td> <td>(内 有償貸与 22件)</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館 講堂</td> <td>21件</td> <td>(内 有償貸与 0件)</td> </tr> <tr> <td>その他(仮庁舎・収蔵庫等)</td> <td>16件</td> <td>(内 有償貸与 13件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>296件</td> <td>(内 有償貸与 52件)</td> </tr> </tbody> </table>									施設名	28年度		平城宮跡資料館 講堂	129件	(内 有償貸与 17件)	平城宮跡資料館 小講堂	130件	(内 有償貸与 22件)	飛鳥資料館 講堂	21件	(内 有償貸与 0件)	その他(仮庁舎・収蔵庫等)	16件	(内 有償貸与 13件)	合計	296件	(内 有償貸与 52件)
施設名	28年度																									
平城宮跡資料館 講堂	129件	(内 有償貸与 17件)																								
平城宮跡資料館 小講堂	130件	(内 有償貸与 22件)																								
飛鳥資料館 講堂	21件	(内 有償貸与 0件)																								
その他(仮庁舎・収蔵庫等)	16件	(内 有償貸与 13件)																								
合計	296件	(内 有償貸与 52件)																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイト上での施設利用紹介等により、一般利用申し出に対する有効利用を推進し、有償貸付等を本来業務に支障の無い範囲で実施した。</li> <li>・平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営について、外部委託を継続した。</li> </ul>																										
【補足事項】 27年度実績																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th colspan="2">27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館 講堂</td> <td>103件</td> <td>(内 有償貸与 17件)</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館 小講堂</td> <td>118件</td> <td>(内 有償貸与 12件)</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館 講堂</td> <td>16件</td> <td>(内 有償貸与 0件)</td> </tr> <tr> <td>その他(仮庁舎・収蔵庫等)</td> <td>19件</td> <td>(内 有償貸与 14件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>256件</td> <td>(内 有償貸与 43件)</td> </tr> </tbody> </table>									施設名	27年度		平城宮跡資料館 講堂	103件	(内 有償貸与 17件)	平城宮跡資料館 小講堂	118件	(内 有償貸与 12件)	飛鳥資料館 講堂	16件	(内 有償貸与 0件)	その他(仮庁舎・収蔵庫等)	19件	(内 有償貸与 14件)	合計	256件	(内 有償貸与 43件)
施設名	27年度																									
平城宮跡資料館 講堂	103件	(内 有償貸与 17件)																								
平城宮跡資料館 小講堂	118件	(内 有償貸与 12件)																								
飛鳥資料館 講堂	16件	(内 有償貸与 0件)																								
その他(仮庁舎・収蔵庫等)	19件	(内 有償貸与 14件)																								
合計	256件	(内 有償貸与 43件)																								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27																		
施設の有効利用件数	296件	-	-		1,328	1,142	286	256																		
うち有償利用件数	52件	-	-		68	37	26	43																		
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ・26年度以降は寄宿舎施設の取り壊しのため、有償利用件数が減少しているが、寄宿舎施設以外については増加傾向に有り、有償利用件数が27年度より増加した。 ・29年度以降についても、現状の分析及び利用者のニーズ等、その結果をもとに、施設の有効利用の推進を本来業務に支障の無い範囲で実施する。																									
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。																										
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ・28年度も引き続き、一般利用申し出に対する有効利用の推進等を行い、利用件数及び収入が増加した。今中期計画においても、本来業務に支障の無い範囲で実施しながら、前中期目標期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。																									



中項目	3. 決算情報・セグメント情報の充実等							
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等							
【年度計画】								
決算情報・セグメント情報の公表の充実について検討する。								
担当部課	本部事務局財務課			事業責任者	課長 瀬倉信康			
【実績・成果】								
決算情報・セグメント情報の充実について検討した結果、28年度に実施した27年度決算については「独立行政法人会計基準」の27年1月改訂に従い以下の通り公表情報の充実を図った。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>財務諸表付属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を新設し、公表情報を充実化した。</li> <li>決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（各施設）毎の情報を公表した。</li> </ul>								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	計画通り取組を実施している。							
【中期計画記載事項】								
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。								
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	計画通り取組を実施している。							